

桃太郎

むかしむかし、あるところにお爺さんとお婆さんが住んでいました。

ある日、お爺さんは柴刈りに、朝早く家を出て山へ行きました。お婆さんはひと片付けした後、川へ洗濯に行きました。ちょうどお婆さんが川で洗濯している時に、川の上流から何かがどんぶらこ、どんぶらこと流れて来ました。よく見ると、なんと今まで見たこともないような大きな桃でした。「おや、これは良いお土産になるわ。」お婆さんは急いで桃を拾い上げて、家に持ち帰りました。

夕方になると、お爺さんが柴を背負って帰って来ました。家に入ると、「おーい、帰ってきたぞ。何か食べる物はあるか？腹が減った。」お婆さんは急いで拾ってきた桃を出して、お爺さんに食べさせようと包丁で切ったその時、「おぎゃーおぎゃー」と泣きながら、なんと桃の中から元気の良い男の赤ちゃんが飛び出して来ました。「これはきっと、神様がわざわざ下さったに違いない！」子供のいなかった老夫婦は、急いで赤ちゃんをしっかりと抱きしめて、大喜びでした。神様に感謝しながら、桃から生まれて来たこの男の子を「桃太郎」と名付けました。